



ホア ビン (平和)

HOA BINHレポート

JVPF 内閣府認証 特定非営利活動法人 日本ベトナム平和友好連絡会議(日越友好連)
NPO Japan Vietnam Peace and Friendship Promotion Council

〒162-0801 東京都新宿区山吹町333番地 辻ビル405 TEL 03-3268-4387 FAX 03-3268-6079
c/o. IFCC.#405, TsujiBLD, 333, Yamabuki-cho, Shinjuku-ku, Tokyo, Japan TEL (81)3-3268-4387/FAX (81)3-3268-6079
http://ifcc1985.com jvccpf@rmail.plala.or.jp



会費/正会員:(個人)5,000円 (団体)50,000円 口座名/日本ベトナム平和友好連絡会議
◎郵便振替 00110-2-188872 ◎三菱東京UFJ銀行・江戸川橋支店(普通)1215225
◎ゆうちょ銀行・〇一九(ゼロイチキュー)店(当座)0188872

謹 賀 新 年

昨年は、宗主国フランスとのディエンビエンフーの戦いによる勝利から60周年(5月7日)、ハノイ解放から60周年(10月10日)の年でした。

今年は南部解放・統一40周年(4月30日)となりますので、JVPFはこの1年間をベトナムの現代史を学ぶ機会としてきました。

従って、JVPFの主要な活動である枯れ葉剤爆弾被害者支援では戦争終結40周年を迎える今も「体内に残る戦争」を見つめ枯れ葉剤被害者支援のためのベトナムアンサンブルチャリティーコンサートを開催してきました。

平和と生存の尊厳を掲げて。

日本で行われている10・21反戦デーは、

かつての労働組合ナショナルセンターの総評が1996年に提唱した世界で初めての労働者による政治ストでした。211万人が参加したと言われています。隔世の感がありますが、他国の戦争被害と破壊によって繁栄を得る自らを問うた日でもありました。

ベトナム戦争終結40周年を迎える今年、「今」を問いたいものです。

今年も、皆様と手を携え、一層の活動発展を進めていきたいと思ひます。

2015年1月

JVPF 役員一同



ハノイ市名誉市民称号を受ける村山会長。同称号は3人に授与され、うち杉良太郎さんも参列された。2014年12月12日、於：在日ベトナム大使館



本号の内容

- ベトナムアンサンブルチャリティー公演報告
- 枯れ葉剤被害家庭慰問等—2014冬jvpf友好訪問団報告
- 活動報告—枯れ葉剤追跡DVD製作、村山学校近況、奨学金支援、福岡 JVPF、埼玉 JVPF、広島 HVPF 等

ベトナムアンサンブルチャリティーコンサート2014の報告

～2014年秋のチャリティーコンサートは10月5日の鹿児島を初日に、延岡、山鹿、豊後大野、福岡、尾道、丸亀、尼崎、藤沢、朝霞の各所で公演10回、福岡の小学校での友情公演1回開催され、10月23日に離日しました。台風禍をぬっての公演となり、開催地の実行委員会には多大な援助をいただきました。

宮崎・延岡公演

ベトナムとの架け橋に

台風18号の影響で開催が心配された「ベトナムアンサンブルチャリティーコンサート延岡公演」は、10月6日の夜、延岡総合文化センターで開催された。公演に先立ち、延岡市長を表敬訪問した。

◆延岡公演は実に10年振り2度目の公演。来場者も291席の小ホールをほぼ埋め尽くし、実行委員の面々は安堵する。延岡市民にとってベトナムの音楽や踊り、楽器を観る機会



る機会は少なく、来場者にとってはベトナム音楽の音色や色彩鮮

やかな民族衣装をまとっての踊り、数本の竹筒に手をたたいて空気を送り込み音を奏でる木管などの演奏すべてが若き日への、あるいは失われた素朴な郷愁にかられたひとときであった。公演後会場を出る人たちが、余韻冷めやらぬ中で、興奮気味に「素晴らしい演奏だった」「ベトナム楽器を初めて見た」「次回の公演はいつか」などと実行委員に語りかけてきた。また、「ベトナム楽器に触れてみたい」との若い女性の申し出に対し団長が快く案内し、その女性が感激する場面もあった。

◆「ベトナム戦争」を知らない世代が多くなった今日ベトナム戦争枯葉剤爆弾被害と文化を少しでも肌に触れてもらえたらと思い、地元の児童養護施設の子どもたちを招待した。これを機に両国のますますの友好発展を願うものであるし、延岡の地からも輪が広がる取り組みを模索していかなければならないことを教えられた。後日、テレビから天童よしみの歌声が聞こえてきた。曲はベトナムの反戦・平和の作曲家チン・コン・ソンによって創られた「美しい昔」であった。その哀愁をおびたメロディーは、ベトナムの哀しみと限りない人間への愛情をうたっていた。最後に、延岡公演を成功させてくれた関係者の皆さまに心よりお礼を申し上げると共に、平和が続くことを願ってやまない。

(JVPPF 宮崎支部 日吉繁雄)

熊本・山鹿公演

芝居小屋とアンサンブルと調和 良かったバイ！！

「芝居小屋は最高！」「八千代座で演奏するのは、ベトナムの人では初めてだね」と公演者の第一声です。

10月7日（火）午後6時30分より、熊本県山鹿市の八

千代座で、地元の軽音楽サークル「たんぼぼ」の歌声で始まり、会場には312人の入場者です。

ベトナム独特の楽器での演奏や踊り、そして歌を次々と披露してくれた。そのたびに会場から自然



に拍手が沸き起こる。まさに、公演者と観客が一体となり、2時間にわたる公演が終了した。

今回の「ベトナムアンサンブルチャリティーコンサートやまが公演」は、4月に3名の打ち合わせで決定し、6月準備委員会を結成し、7月第1回実行委員会（89名の実行委員）を立ち上げた。その中には、山鹿市民グループ、社協、高校PTA、シルバー人材、子ども劇場、生協、図書館、肥後有明地域協議会、荒玉・鹿本労協などのグループの方々が参集した。そして、5回の実行委員会や売券活動も積極的に展開した。今回の取り組みは、他団体との交流や個人的なつながりを持つことができた。

最後の総括実行委員会では、今後も広範囲な地域活動を展開していこうとピザを焼き・食べながら、だご汁に舌鼓を打ちながら、飲みながら楽しい会となった。最後にこの山鹿公演成功に向けてご尽力いただいた実行委員の皆様、ベトナム音楽を聴きにきていただいた皆様に心から感謝申し上げます。

(山鹿公演実行委員会 事務局長 勢田昭一)

埼玉・朝霞公演

事前に賛同団体・賛同者の集いを開催

さる10月22日、埼玉県・朝霞市の朝霞市民会館ホールで『2014ベトナムアンサンブル埼玉公演』が（主催・朝霞公演実行委員会、協賛・日本ベトナム平和友好埼玉連絡会、後援・朝霞市、朝霞市教育委員会、志木市、志木市教育委員会、和光市、和光市教育委員会、和光市教育委員会、新座市、新座市教育委員会）盛大に行われました。

朝霞実行委員会（代表：新井幸好弁護士）の取り組みは、延べ8回の実行委員会を開催し、準備段階で、多くの方に、当コンサートに協力を仰ぐために、枯葉剤及びその被害の実態を知っていただくこと、「賛同団体・賛同者の集い」として、七月に細谷久美子さんから枯葉剤被害児童の追跡記録の上映とお話しをしていただきました。さらに、その二回目として、九月に谷合美和子さんから絵本「ベトちゃ

んどクちゃんからのてがみ」の朗読やお話をしていただきました。一人でも多くの方に参加していただき、コンサートへの参加を呼びかけました。

公演は、当日、朝から雨が降り、気温も低くどうか？・・・と思っていましたが、314名の観客で会場はもりあがりました。特に朝霞公演では、初めての取り組みでしたが、公演と絵本『ベトナムのてがみ』（童心社）の朗読のジョイントが成功し、会場は観客と演奏者が一体になりました。また、「会場アンケート」も実施し、いろいろな声を聞くことができました。九十九%が「よかった」の感想、特徴的なのは「ベトナムに行きたい！」の声が多く出されました。私たち実行委員一同、「音楽の力」を感じ、ホットしました。

（実行委員会事務局 村田文一）

広島・尾道公演

公演(台風のため中止)の取り組み ～カンパは実現した～

10月13日開催予定のベトナムアンサンブルチャリティーコンサートは、台風19号の影響により広島県内に「暴風波浪警報」が発令され、安全第一を考え中止しました。コンサートが中止となり、尾道市民とベトナムの国際交流の機会が失われたことは残念ですが、パネル展示(尾道市立図書館・むかいしま中央公民館・市役所ロビー)、諸団体(連合尾道地協の組織)への支援活動、市内の高等学校・中学校・小学校などへのポスター掲示などの取り組みにより、枯葉剤爆弾による被害者の状況や支援活動を市民の方々に広めたのではないかと考えています。

とりくみを広げる要因には、尾道市・尾道市教育委員会の共催、尾道市文化協会・尾道市社会福祉協議会・尾道市

活動
短信

中部クアンナム省で枯れ葉剤被害者支援 「仁愛の家」を寄贈

さいたま JVPF

さいたま JVPF は 2014 年 8 月 8 日から中部クアンナム省を訪問。(団長：山下茂・さいたま JVPF 会長、参加者 10 人)。今回も、継続しているクアンナム省での枯れ葉剤被害者家屋建設支援のため基金を贈呈しました。支援金で作られた「仁愛の家」は 7 件目となり、10 件を目指す意気込みが届いている。

今回の訪問団は、8月10日の枯れ葉剤爆弾投下を銘記するための集いに参加することを希望し、現地の催しにも参加した。

右の写真は、さいたま JVPF の活動を報道する現地新聞。



民生委員児童委員協議会の後援、地元新聞・ケーブルテレビなどの協力を頂いたことです。

コンサート中止は、実行委員会の判断でしたため諸経費を負担するという状況が発生しました。しかし、実行委員会の団体・企業・個人などにカンパの願いをし、快くご支援を頂きました。このカンパにより IFCC 国際友好文化センターに支援することができました。

私たちは IFCC 国際友好文化センター(日越友好プロジェクト事務局)が主催する「ベトナム『枯葉剤爆弾被害者支援』・ベトナムアンサンブルチャリティーコンサート」を今後も支援していきたいと考えています。

(尾道公演実行委員 山根 基嗣)

兵庫・尼崎公演

交流が広がり、平和を守り、つくっている

2014年10月16日(土)、ベトナムの歌と踊りの時間。開会にあたり、公演の世話人の一人であり、チン・コン・ソンとも個人的に親しかった富田健次・ベトナムストクラブ代表で元大阪大学教授から挨拶をうけた。

演奏が始まる。華やかな衣装の美女たちの歌と踊りに目を奪われる。珍しい楽器の、でもどこか懐かしい響き。なだそうそう～♪と声をあわせて歌えあえたのも嬉しい。そして「坊や大きくなれないで」。ベトナムでの北爆に怒り、心から平和を願ったベトナム反戦は、私たちの青春であり、思いは重なっていた。

左手1本で紡ぎ出されるとは信じられない、物静かだが表情豊かな、哀愁にみちたグエン・テ・ビンさんのギターの調べ。

障がいの子や孤児に音楽を学ぶための学校をつくるなど、ビンさんお人柄に惹かれる。

会場に展示された枯れ葉剤被害者の子供たちの写真。

過去のことでなく、今現在、私たち

同じ時代を生きている人々と、その家族。会場で販売されている手作りの品を買ったり、カンパするしかできないけれど。

1996年から毎年この時期、日本の秋に来日されて各地で公演されていることをはじめて知ってお手伝い。枯れ葉剤障がい児が織った「さをり織り」の服を買っていつも来ているご縁。地味ではあるが、こうした交流が広がり、平和を守り、つくっているのだと信じる。

来年もお会いしましょう。お元気で。感謝。

(世話人 中島小夜子)



2014 冬 JVPF 訪問団

訪問団は2014年12月21日～26日実施。松浦正美・団長（JVPF 副会長）、総勢8人。南部ドンナイ省2箇所、北部タイビン省2箇所の家庭を慰問し慰問金と土産を手渡し聞き取りを行ってきた。ダイオキシン残留のホットスポットの一つがあるドンナイで現地事情聴取が手違いで実現できなかったことは残念であった。

北部タイビンでは、コンサート益金で作られたリハビリ施設も慰問してきた。

家庭慰問①、② ドンナイ省

溝渕 照将

12月22日、ドンナイ省ビエンホアに住む被害者家庭へ慰問することができた。

《家庭訪問①**ドンナイ県ビエンホア市
タンティエン区》**

最初に訪れた家庭は、パン屋さんに勤める父43歳、朝食を作って販売している母40歳、長男17歳、次男13歳の4人家族でした。枯葉剤の影響で子ども2人ともに障がいが出ている。

父の兄弟は5人、母の兄弟は11人。母の出身地であるチャンザイ？区は枯葉剤が多量に撒かれた地域で両親も直接、枯葉剤を浴びていると思われる。しかし、影響が出ているのは自分の子供2人だけで他の兄弟の子どもたちは全員健康とのこと。

長男は自分で歩くことも、会話することもできるため、教会内にある被害者学校（約40人在学）に楽しく通っている。次男は会話することができないため、学校には行かずに両親がずっと抱いている。血液の病気で血流が悪くなるため栄養を与えることが必要とのことだった。

被害者貧困家庭には国からの救済活動で「仁愛の家」が貰える。両親の収入は1ヵ月で650万ドン程度。政府からの援助金は、長男に60万



ドン、次男に48万ドン、母に24万ドン支給されているが被害者としての援助ではなく、子どもを育てることへの援助となっている。

《家庭訪問②**ドンナイ県ビエンホア市
タンティエン区》**

次に訪れた家庭は、袋を作る工場に勤める父60歳、母60歳、子ども3人の家族。長男、次男は健康であり、学校を卒業して仕事をしているが、三男だけに生まれた時から影響が出ており、声は聞こえているが



会話ができず、トイレも自分で行けないため、学校には行っていない。身体が弱く、よく病気になるとのこと。

家の近くに3～4人は同じような被害者がいるが交流も無く、VAVAにも加入していないし、参加もしていない。

当時、衛生面から蚊の駆除を目的として枯葉剤が散布された。父、母とも小さい時から近くに住んでおり、直接、枯葉剤を被っている。最初は、蚊の駆除ということで良いことをしてくれていると感じたし、身体に影響が出るとは思ってもみなかった。解放の後、新聞や国から影響が出る可能性のことも知ったとのこと。

国は被害者支援のため毎月48万ドンを支給している。以前は20万ドンだったが支給額が増額した。特別な治療やリハビリは無く、健康保険カードを渡されており、病気になれば病院へ行くだけとのこと。

被害者の多くが貧困であり、もっと多面的な支援を望んでいる。政府からの支援を受けられていない被害者も多いと聞いた。また、二世代までしか支援されない政策のため、三世代にはまったく支援されていない。枯葉剤の影響は今後も出続ける可能性が高いため、政策の見直しを求めていると思った。

**家庭慰問③ タイビン省
VuThu 郡 Minh Quang 区**

～第3世代への被害を見る～

川路 孝

(社会福祉局 ミンさん 案内)

慰問先：「ミンクワン集落」スーさん一家

家族構成 夫スーさん（68歳）と妻ピンさん（75歳）夫婦。子供3人。

- ①長男44歳＝精神障害 自宅周辺を徘徊。妻とは離婚。
- ②次男クワンさん40歳＝動けない、歯がない、意識はあるが聞こえない。
- ③長女モーさん34歳＝精神障害自宅周辺を徘徊
- ④長男の子＝孫＝女性・17歳。生まれた時から、足は曲がったまま、動けない。



上：父親と寝たぎりの次男。
下：母親と寝たぎりの長男の子供
（第3世代）



【夫スーさん】 兵隊として、1965～1975年、「クアンチ」配属。戦時中、爆弾で腕をやられる。「クアンチ」での生活で障害。腕が痛いし、頭が痛い。毎日病院に行き、薬もらっている。戦争から帰ってからは農業だけ。しかし、今は二人（次男と孫）の障害者の面倒で、仕事できない。

【妻ピンさん】 ずっとここで生活、健康的には問題なし、大丈夫。

現在、一家は、夫スーさんの1か月150万ドンと、次男1か月80万ドンの政府からの保障のみで生活。大変厳しいとのこと。

心配事は、親が死んだら子供・孫をだれが面倒見るのかということ。

周辺の「ボランティア組織」（同行されていたピンさんが代表。被害者同盟とは別組織のようであった）が、面倒を見る方向にはある。

スーさん一家が暮らしている「ミンクワン集落」では、人口約8000人のうち、46人が戦争に参加、枯葉剤被害を受けている。2世の子供たちは、18人障害。3世については、調査していないという。

支援の拡大が訴えられた。

**家庭慰問④ タイビン省
VuThu 郡 Huyen 区**
～30歳で体重25kg～
細谷 久美子

ここは結構大きな家である。庭も広い。盆栽もかなりある。1世代の直接戦争に従事した祖父と言われる方はファン・バン・ビンさん、68歳。1965年から1973年の間クアンチで従軍している。

1973年に結婚をし、最初の子を2ヵ月で流産をし、その後、4人の子を設けている。

長女の健康は大丈夫で結婚し生活している。

2人目は長男で彼自体はあまり問題がないのだが、彼の2人目の子供（3世代）の眼が見えなく、その治療のために手術をし、入院していてその付添いについているということ。で今日は不在であった。彼の奥さんはもう1人の子供を連れて実家に帰っているとのこと（もしかして離婚

しているということかも知れない）。3番目は次女の子（2世代）で神経が侵されている。

そして4番目が今日我々の前にい



上：動けない父親
下：30歳、体重25kg（写真左）



る彼・次男で30歳だが体重が25kg（2世代）である。名前はタイ君。身体が弱く、

体重が25kgということもあり行動するのに身体が自由がきかない。たしかに身体を触らせてもらったが、筋肉も小さく、胸板は薄い。胃が悪いというから食事にも満足が取れず、話すのにも疲れるのであろう。学校にも行けない、仕事も出来ないと、こちらの問いにはお母さんが対応する。

ベトナム政府は1世代目のビンさんに1ヵ月220万ドン、2世代目のタイさんに86万ドンの支援金を出しているが、長男の子供の眼が見えないことには一切の補償をしていない。

ビンさんの奥さんは65歳で戦争には行っていない。しかし身体があまり丈夫ではなく仕事は何も出来ないという。だからビンさんの220万ドンとタイさんの86万ドン以外の収入は、奥さんの兄弟が庭を管理してくれ、鳥を買い、盆栽を造る中で援助してくれている。政府には「もっと援助してくれと言いたい」と言う。

ビンさんが1965～1973年まで従軍してい

たクアンチでは、森の中でアメリカが枯葉剤を散布した地域でものを食べ、水を飲んでいた。今、身体はほとんど自由に動けない。少し苦しいが話すことは少しできる。ベッドの傍で食事をし、大小便もそこで済まざるを得ないということである。

枯葉剤被害家族の戦争は終わらない

野田 邦治

枯葉剤被害児童支援のベトナムアンサンブル公演を2000年から熊本各地で開催し、昨年の山鹿公演で12ヶ所となりました。その間、ベトナムを訪問し枯葉剤被害者家族を訪問したのは玉名市の2名の方だけで、その被害状況を知るのはアンサンブル公演当日のパネルだけでした。

今回、全ての用事を断り参加し、この目でしっかりと被害者家族の生活とその苦悩を記憶して来ました。

ベトナム戦争で枯葉剤が大量に撒かれたドンナイ省、タイビン省等で労働省管轄下の枯葉剤被害者協会（VAVA）が被害者家族の把握と援助を行い確実に前進しつつも、家庭慰問で訪問した四被害家族の生活は厳しく、やっと食うだけの状況に見えた。

今回予定されていたVAVAとの会談は中止となり、全国的な詳しい統計は判りませんが、既に被害が4世代目に移り、被害の拡大は進んでいるように聞きました。

両親から子供へ孫へと遺伝子障害が受け継がれと枯葉剤被害児童は産まれてくる。

政府はその保障に責任を負わなければならないのは当然だが、それ以上にダイオキシンが人体を壊すことを知りながら、ベトナム人民を皆殺



ドンナイのホットスポット。かつての米軍基地跡は今も越軍基地として使用されている。ダイオキシン残存は住民に周知されているのか。



家庭慰問では僅かだが各所で慰問金を渡してきた

して来たアメリカ軍の責任は大きい。

当然の報いとして、謝罪と補償を求める裁判ではっきりさせなければならないだろう。

今回、被害者家族慰問を通じて疑問に感じたことは3世代目は補償がないこと、更に解放戦争終結の1975年以降に産まれた子供にも補償がないと聞くと、つい水俣と同じじゃないかと思った。(水俣病の認定基準の根拠とした、原因企業チッソが水銀を触媒として止めた時以降、該当地域指定以外は認めないとした)

ダイオキシンは川を流れ、汚染流域を拡大し、被害を広めた。

ベトナム政府の戦争犠牲者への補償は量質とも確実に成果を挙げつつも、フランス、日本、アメリカと長い植民地反対戦争での重荷は今も国民生活にのしかかっている。

今の経済発展の恩恵だけでは追いつかない事情が解れば解るほど、長い支援の継続と横断的な国際的支援機構が必要ではないかと思う。

●ドンナイ省 (VAVA) レポート

「被害者協会」の方との会談は、場所もとれていなく、お2人の方が労働福祉局の建物から一緒に同乗し、直接「枯れ葉剤被害者の家庭訪問」に向かうという。お1人はVAVAの方ということでお名前を聞いた。Hien ヒンさんという女性である。バスの中での彼女のお話である。「自分の仕事は総合的な仕事。ドンナイ省の各地方からの報告をまとめ、省としての支援の内容を決める。VAVAの事務所は別にある」とのこと。「今日の家庭訪問の地も、ドンナイ県の方が管理をしているので、自分にはビエンホア市のどこの被害者を訪問するかも分からない」とも言う。

ヒンさん自身もお父さんが枯れ葉剤の被害者で彼女は5人の兄弟の4番目。彼女の身体にも枯れ葉剤の障害はくっきりと残されている。足が不自由で「6歳の時に手術をして今のように歩けるようになった」というヒンさん34歳のお話である。

「妹は29歳、大学を卒業したが、身体はとっても小さい。父は兵隊でハタイ省出身、ラオス、カンボジア、ベトナム南部で戦争に参加した。戦後、喉のガンでなくなった。母はやっぱり兵隊で戦争の時に怪我をしたが、今は元気である。父は国からの援助も受けていた」とのこと。

●タイビン省 Vu Thu 区 VAVA

予定が少し変更になり、初めにブートック区のVAVAのミンさんのお話を聞く。

まず、ブートック区の枯れ葉剤の撒かれた地区が一覧表にされている部屋に案内される。そして、今日訪れる「家庭訪問」の「ブー・ドアイ (Vu Doai)」で(ここは直接被害を受けた祖父・父・子:2人)の3世代の被害者家族を訪れること、もう1つの「家庭訪問」の「ミン・クアン (Minh Quang)」で直接被害を受けた人とその2世の被害者を訪れることが話された。

この部屋の中には、いわゆる「枯れ葉剤の子供たち」の写真が展示されていたが、よく見るとタイビン省のリハビリ施設で「足を使ってストラップを作っていた少女」の写

真も「1986年生まれ:タイビン省ブートー区」として展示されていた。

●タイビン枯れ葉剤被害者リハビリ施設にて

ズン所長が会議のため留守で、副所長のアイ副所長が対応してくれた。ここでの話は余りまとまったものではなく、2015年8月のタイビンボランティアについての受け入れ要請が1つ行われた後、在籍している子供たちのことが少し話された。「子供たちの治療は、治って出ていき、新しい子供も入っている」「20人の子供うち、今は冬休

みなので家に帰っていて8人が残っている」と。久しぶりにお会いしたスワン先生からは「この1年で家に帰って行った子供たちの中には、刺繍で手

各地の VAVA とタイビンリハビリ施設

細谷レポート「今なお続く枯れ葉剤被害の苦悩」より

に職をつけた人は、それを商売にしている人もいる」とのことである。こういう形で枯れ葉剤被害者が少しでも自立できるようになっていくことは本当に喜ばしいことでもある。

その後、リハビリセンター内で、残ってい



旧知のスワンさんと再会を喜び細谷さん 於:リハビリ施設



リハビリ中。施設機材が古くなってきている。

「絵」を描き、不自由な手で渡してくれた彼、何かを納得したかのように「ウン、ウン」と頷く少しオジサン風の大人しい彼、早く彼らも治療を完了し家に帰ることが出来るように心から願う。

る子供たちとの触れ合いを持ち、ひと時の逢瀬を楽しんだ。この中には私の知った顔はたった2人になっている。自分で

教育支援プログラム

～～～心を届ける奨学金支援～～～

ダラット少数民族高校奨学金授与式

JVPF 鹿児島支部・山下順子

JVPF 鹿児島支部はダラット少数民族高校生の就学支援を始めて2年目を迎えた。

今年度は、10名の生徒を支援することになり、奨学金授与のため高校を訪問した。

会場の体育館で全生徒450名の歓迎の拍手で授与式が始まった。JVPF 鹿児島支部を代表した川路孝さんの挨拶の後、2年生11名、1年生10名に一人ひとり奨学金を壇上で渡した。手渡す時、何回も練習したであろう「ありがとう」「ありがとうございます」の感謝の言葉を日本語で受け、驚きと共に大変嬉しく思った。これは昨年度になかったことであった。2年生は再会の親しみをもって握手してくれ、1年生は嬉しさの中に少々不安な顔を覗かせていた。

授与式の後、短時間ではあったが、21人の生徒と交流した。校長先生からは、私たちへの感謝の言葉、生徒へは卒業後、留学や実習生として日本へ行く道があることが紹介された。1年生の将来の夢は医者になりたい、先生になりたいがそれぞれ4名、警察官、村の行政指導者になりたいがそれぞれ1名ずつあった。貧しい村の中で将来は民や

村に役立つ人になりたいという強い思いを持っていた。

私たちの希望は、奨学金の授与を通じ、皆さんの成長を見守り、交流を深め



ることが目的であるーと伝えた。

1年生には、サポーターの顔写真、プロフィール、メッセージを渡して、自分をサポートしてくれる人を確認してもらい、返事が欲しいことを伝えた。(2年生には昨年渡してある)

この支援活動が、明日を信じ、勉強に励んでいる生徒たちの夢実現の一助になることを抱きつつ、一同記念撮影し

別れを告げた。

バクザン省とハノイ市の2つの小学校を訪問

JVPF 副会長 松浦正美

(NPO 法人ウォーター・ビジョン理事長)

12月24日(水)、バクザン省とハノイ市の2つの小学校を「2014冬ベトナム訪問団」の一員として両小学校の実情を視察してきました。

小学校への訪問は、初めての経験で、日本の小学校と最も違うところは、ベトナムの公立小学校では学校で昼食をする習慣が全くないことでした。そのため、朝登校して午前の授業(7時30分～10時30分)が終わると、生徒は全員帰宅し、家で食



上：バクザン省の YenLu 第一小学校
下：ハノイ市の VanHa 小学校

事をしてから、再度登校して午後の授業(1時30分～4時30分まで)を受けて下校することでした。

授業を受けている生徒達は、筆記用具でノートを取っている生

徒がいる中で、チョークのようなもので、石版に書いている生徒を何人か見かけました。私は昭和21年生まれで、小学校で石版をノート替わりに使った経験は、全くなかったが、祖母から石版の話を聞いていたので、この様にして石版はつかうのか、理解することができました。

当然ながら授業料は、義務教育のため無料ですが、ノートや鉛筆などの文房具については、各自負担で、年間一人当たり約3,000円が必要となるが、このお金の捻出に困っている家庭がバクザン省の小学校では、30人。ハノイ市の小学校では、11人いるとのことで、こうした生徒への奨学金の支援をJVPFで検討してほしい旨の要望を受けてきました。

両小学校とも、生徒の家庭は殆ど農業で生計をたてており、貧しい家庭の生徒が多いことも分りました。

ハノイ市の小学校の生徒の通学距離は、1km以内と伺ったが、バクザン省の小学校の生徒の中には、5kmも通学距離がある生徒がいるため、こうした生徒の父兄は、午前と午後の登下校をサポートしなければならないことから、小学校に我が子を通わせるだけでも父兄にとっては、大変な負担があることが分りました。

ヒロシマ——クアンチの絆 ～10月16日、クアンチで奨学金贈与～

広島ベトナム平和友好協会 専務理事 赤木達男

ヒロシマとベトナム。ともに戦争による悲惨な体験を持ち、願いを同じくするクアンチ省の子どもたちの夢と希望、そして可能性をかなえるためのクアンチ省少数民族寄宿高等学校へのささやかな奨学支援。

「HVPF教育支援プログラム「高校生10USドル支援活動」は今年6年目を迎えました。この間、延べ120名の子どもたちを支援した金額は総額3万6千ドルになりました。

これまでに2009年入学の第1期奨学生から2011年入学の第3期奨学生30名が「優秀な成績で卒業し、20名が師範大学をはじめ大学へ、40名が専門学校に進学した」(リン校長)ということです。

この奨学支援活動を支えてくださっているのは37歳から84歳までの延べ119名のサポーターの皆さんです。

「世界の子どもたちの助けになりたい。これが以前からの私の夢です。高校1年と小学3年生がいます。子育ての最中で大変ですが、あと一人子どもがいることを励みに、働きます」(41歳・パート主婦)。

「人工透析を32年間続けながら2人の子どもを育ててきました。ベトナムは長い戦争時代を経て、現在めざましい発展を遂げ、私たちが育った少年時代によく似ています。平和で豊かな国になるよう頑張ってください。微力ですが協力させていただきます」(66歳・男性)。

今年も、こうした暖かいメッセージを手に10月16日、少数民族寄宿高等学校を訪れ、第4期から第6期まで60名の奨学生一人ひとりに奨学金を届けました。

意義深い奨学支援の継続と市民レベルでの相互理解に基づく友好関係を一層深めるためにも、学校や奨学生から

サポーターへの情報や近況報告などの活発化が課題だと思っています。

直接手渡しで、人間関係の構築を ～ニンビン、タイビンで138人支援～ NGO 時遊人

2009年より開始した奨学金支援プロジェクトは、今年で138名の生徒を支援することができました。



奨学金は振込むのではなく、現地に訪問し生徒に直接手渡しすることで奨学金の流れを明確にし、支援者様と生徒の人間関係の構築をも応援しております。

8月5日はタイビン省 Bao Hung 中学校を訪問しパソコンを寄付しました。誰からの支援であるかわかるように支援者情報シールを貼って渡します。

校庭には大きな池があり魚を養殖し、それを売ったり食糧にしたりして学校運営に役立っています。この学校は地域で上位30%に入る優秀な生徒が在学している進学校です。同月14日には早稲田大学の学生団体 DOORS 様が来校予定で、その際には、一生懸命勉強している英語でコミュニケーションを取りたいと皆楽しみにしているとの事です。

8月6日にはタンタイン中学校で奨学金授与を行いました。生徒達は旗を作って待っていてくれて、いつものように歌で歓迎してくれました。各学年で優秀な生徒10名にひとりずつ手渡しで支援し、同校だけで累計80名の生徒に奨学金支援を行うことができました。

支援者の皆さまへの手紙を書く事を約束しており、今年からは手紙を英語で書く事も試みるとの事です。



協和化学本社で松島社長(前列中央)を表敬するルオン校長(前列左)、アンサンブル・桃花リリー・タンさん(前列右)ら一行。2014・10・15

●協和化学工業株式会社(本社：香川・坂出市、代表：松島慶三)様より二年目となる援助金を受けました。
村山日本語学校も二〇〇七年の開校から八年目に入りました。援助を糧として、さらに発展を期したいと思っています。

●協和化学工業株式会社(本社：香川・坂出市、代表：松島慶三)様より二年目となる援助金を受けました。
村山日本語学校も二〇〇七年の開校から八年目に入りました。援助を糧として、さらに発展を期したいと思っています。

●JVPFの2014冬訪問団は、十二月二十二日(二〇一四年)、村山記念JVPF日本語学校を久しぶりに訪問。ルオン校長より、十月を持って累積赤字を解消できたこと、学生も二百人を超えたこと、ホーチミン青年同盟と提携した「少年少女クラブ・日本語教室」をボランティアで行っていること、COAの委託事業を短期大学で行っていることなど、報告を受けました。現在、教師は十一人。
●第一期修了生で、明治大学、APC大学に留学していた学生は早いもので今年の三月卒業となります。しかし、日本留学への道は、日本で継続して日本語修学するか、英語入学をするかの道しかないように思います。



2014 冬訪問団と学生たち(後列)

●村山記念 JVPF 日本語学校の近況

南部解放・統一40周年を迎えるベトナム ——記念訪問団へご参加を呼びかけます——

ベトナム3つの民族解放闘争<その戦略と戦術>



枯れ葉剤投下模様

1945年8月、抗日抵抗闘争を戦っていた過程で、日本軍国主義への勝利という有利な国際情勢をとらえて人民は蜂起しました。9月2日、「独立宣言」がされベトナム民主共和国が誕生しました。

当日のホー主席の服

装は普段着でサンダル履き「宣言」を読み上げている途中で民衆に向かい「聞こえますか」と問いかけたとポー・グエン・ザップは回想しています。フランスは再び植民地支配を計ろうとサイゴンに軍隊を送り込んできました。敵対行為の停止に関する予備協定が調印されたが、フランスは、協定を侵犯して侵略を拡大しました。平和的解決の望みが失

ベトナム3つの民族解放闘争 <その戦略と戦術>



ソンミ事件跡

われベトナム人民は祖国防衛の戦いに立ち上がりました。

ベトナムは、民族と帝国主義国、人民内部特に農民と封建地主階級との間の2つの矛盾を根本的に解消し、民族民主主義革命による独立と民主主義を徹底すること

とでベトナム革命のために社会主義への道を開くことにありました。

人口の圧倒的多数を構成している農民や地主階級以外

の愛國的な民族諸勢力を結集させた民族統一戦線を結成し、拡大・強化することが不可欠でした。「勝利、偉大なる勝利のための、団結、偉大なる団結」という、ホー主席のスローガンはそのことを示しています。この戦争を勝利するための決定的要素のひとつである広範な農民の動員を可能にするため地代と利子の引下げなど農業問題の漸進的解決を提唱しました。

「経済的に遅れた植民地国家における……<戦略は長期抗戦>の戦略でなければならない。……敵をすみやかに打破する可能性はなかった。味方の力を強化し、わが方に有利に兵力の均衡を変えて行き、そして最後に勝利をかちとるように、徐々に敵を疲れ果てさせ得る方法は、長期にわたる困難な抵抗戦争以外になかった。……長期革命戦争はいくつかの異なった段階を包含していなければならない。すなわち防衛の段階、均衡の段階、反抗の段階である」(『人民の戦争・人民の軍隊』(弘文堂)ポー・グエン・ザップ)

最初はゲリラ戦として出発し、兵力を強化して味方の根拠地を拡大して機動戦(地方軍)へ成長して、そして歩兵だけでなく様々な兵科に

より敵兵を壊滅することで祖国を解放する正規軍へと発展します。実際の戦闘では互いに関連させ組み合わせで敵に最大の損害を与え、味方の被害を最小限に抑える戦術を駆使しました。1954年ディエンビエンフー作戦でフランス精鋭部隊に壊滅的打撃を与えました。

今までフランス支援をしていたアメリカ帝国主義が2つのベトナムを維持して北部に対する侵略を意図して戦争の前面に躍り出ました。北部では社会主義を推し進め、南部開放を担う物質的条件・軍事的強化に取り組みました。1972年「パリ協定」の調印は、アメリカ帝国主義の敗北が内外に明らかとなり、南部開放に向けた大きな転機でした。しかし、アメリカ帝国主義は「協定」を守ろうとせず、南部カイヤイ政権への軍事援助を強めました。人民軍は南ベトナム開放作戦を全面的に展開して勝利します。1975年3月「サイゴン開放」の決断を下しホー・チ・ミン作戦と名づけられ、4月30日サイゴンが解放されました。(田中)

活動 短信

福岡 JVPF——ホーチミン訪問

8月16日から19日までの4日間、ホーチミンを訪問しました。

クチトンネルでは、広いジャングルの中を歩きながら、その下に迷路のようなトンネルが張り巡らされているのを想像するのは難しいことでした。食堂室や作戦室、病院室に至るまで、生活の全てがその中にあることはなおさらです。そして、大量の枯葉剤によって、この広いジャングルの木々がわずか30分で全て枯れてしまったことは、何より想像しがたく、信じられないことでした。

ツーツー病院の平和村では、子どもたちやドクさんとの嬉しい出会いがあった一方、ホルマリン漬けの赤

ちゃんたちとの悲しいでも悔しいでもない言葉にならない出会いがありました。貼ってあるラベルを見ると、誕生日が書いてあり、私と同年の赤ちゃんがたくさんいました。同じ長さだけ人生を楽しみ、多くの経験をしていたはずの赤ちゃんたちを前に、自分がいかに無知であるかを思い知らされました。

戦争は当時の人の命や自然を奪っただけではなく、人の心も奪い、今を生きる子どもたちをも苦しめているのだということを強く感じた4日間でした。見たこと、触れたことを忘れず、伝えていきたいと思います。そして、これからも多くに触れ、学び続けたいです。(大櫃 玲子)

枯れ葉剤被害者追跡 DVD 製作への想い

第3版 3月末発売予定

枯れ葉剤被害児童の追跡調査記録 DVD 製作のため、私は8月と10月の二度にわたり、ベトナムを訪問して参りました。このプロジェクトは2003年にスタート…『歪められた遺伝子(2003)』『それでも私は行きてゆく(2008)』に続く、今回が私にとって、三本目の作品となります。この記録 DVD の主眼は、“枯れ葉剤問題とそれを取り巻く状況が、時の流れと共にどのように変貌して行くのか” それを実際に**枯れ葉剤被害児童を抱える普通の家族**の視点から捉えたい…という点にあります。



Ms. Vuong Thi Thuong.
左は鈴木伊織さん



Ms. Nguyen Thi Thoa
(左から3番目)と家族ら

そのため、これまで私は、ベトナム北部に位置する地方都市、タイビン省に暮らす三つの家族に取材し、インタビューを重ねて参りました。国や地域、あるいは枯れ葉剤を使用した当事国であるアメリカが、今なお多くのベトナム国民を苦しめ続けている枯れ葉剤問題の解決に向けて歩みを進め、それと共に、枯れ葉剤被害者やその家族の心の傷も、徐々に薄らいで行く…そんな理想的な結末を夢見

ながら。しかし現実、そのような進展はしませんでした。この10年の間に起こった事…枯れ葉剤を製造したアメリカの化学薬品企業を相手取り、ベトナムの被害者団体が起こした訴訟はあえなく棄却され、枯れ葉剤被害者に対して行われる国からの経済的支援も、被害者達の生活全般を

まかなうには程遠い金額のまま、据え置かれています。そしてベトナムの急激な経済発展に伴う地域格差も、枯れ葉剤問題に大きな影を落としています。

この10年間に、枯れ葉剤被害者を対象とした支援団体や医療施設の数には確かに増えていますが、その多くはホーチミンやハノイ、ダナンといった大都市に集中しており、地方に暮らす被害者は、その恩恵を受ける事が出来ません。私が取材を続けているタイビン省の枯れ葉剤被害児童達も同じような状況に置かれています。つまり彼等の生活は、この**10年間、殆ど改善されていない**のです。

一向に解決の兆しが見えない枯れ葉剤問題…その原因はどこにあるのか？ それを探る事が、今回の私の作品のテーマとなりました。

そのため、今回はより取材のフィールドを広げ、これまでとは違った多角的な視点から、枯れ葉剤問題を捉えようと考えました。アメリカの枯れ葉剤製造企業を訴えた枯れ葉剤被害者団体(=VAVA)の活動の様子。アメリカ、ベトナム両国の共同事業としてスタートした枯れ葉剤による汚染地域の土壌改良事業の様子。ベトナムの医療チームとタッグを組み、枯れ葉剤被害者の救済に取り組んでいる日本のNPOの活動の様子等、枯れ葉剤問題を取り巻く様々な“動き”を追いました。そしてもちろん、この記録 DVD の主役ともいべきタイビン省の枯れ葉剤被害児童とその**家族達の“今”**も克明に取材して参りました(残念ながら三家族の内、一家族には彼等の家庭の都合により、再会する事は適いませんでしたが…)。

この記録 DVD は、今春の完成を目指して製作中です。完成の折には DVD の購入、上映会の企画・開催等、皆様の御協力を頂ければ幸いです。皆様の応援、どうぞ宜しくお願い致します。(鈴木伊織)



取材に答えるVAVA
会長 於：東京

掲示板

これまで(掲載記事以外の動き)

- 枯れ葉剤被害者組織(VAVA) NGUYEN VAN RINH 会長と2014年8月7日会見。枯れ葉剤被害及び支援の状況について意見交換。
- 恒例のベトナムフェスティバルに会員の今井和夫さん(有限会社・ランワールド代表)が協力。初めての水上劇公演が開催された。
- ベトナム国会外務員会副委員長 Mr. Ha Huy Thong を代表とする枯れ葉剤爆弾被害に関する対日交渉グループと9月17日会談。
- 枯れ葉剤被害者記録 DVD 製作・第2回取材が2014年10月13日から、ハノイ、タイビンで実施。鈴木伊織さん、

志村芳美さんが参加。

- 広島HVPF 2014年10月15日、奨学金授与のためクアンチ訪問



Cam Ngoc Minh ソンラ省政府主席一行と会談した又市征治・参議院議員

- Son La 省訪問日を2014年10月15日受入(漢方薬視察団)。東京では国会視察の際、又市征治参議院議員と会見。
- ハノイ市友好委員会代表団が来日。12月12日、村山会長へのハノイ市名誉市民賞授与式が行われる。

これから

- 枯れ葉剤被害者記録 DVD 第3版3月

末製作仕上げ。発売開始。

- 2015 ベトナムアンサンブル準備開始 ※北海道、東北、北信、越前、関東など
- ベトナム南部解放・統一40周年記念訪問団。2015年4月28日から
- 同 鹿児島 JVPF 訪問団。4月28日から
- 広島 HVPF の友好訪問団。7月頃予定
- タイビン・ボランティア(仮称)が学生対象に8月頃予定。※NPO ウォータービジョン企画
- JVPF 第八回総会日程
2015年5月30日(土)
午後2時30分～6時
- 2014年度第2回理事会日程
2015年5月30日(土)午後1時～。場所：東京、会場：いずれも後日案内